

認知症重度化予防介護教室を活用した家族介護者の介護負担感、行動変容の検証

午頭 潤子・森山 千賀子・渡辺 羊子*

研究実績の概要

1. 本研究の目的

本研究では、認知症の人のケアをする家族介護者を対象に、「認知症の重度化予防認知症介護教室」を開催し、認知症の症状改善の検証、認知症の症状の改善を通し、家族介護者の介護負担感の変化、行動変容を明らかにすることを目的とする。

また本研究では、市民の一番の身近な場所である公民館と連携し、開拓的な認知症介護教室等を開催することで高齢者や認知症の人をかかえる市民のニーズを把握し、自治体や地域包括支援センター、介護事業所との関わりも深め地域包括ケアシステムの構築を目指す。

2. 認知症の重度化予防認知症介護教室の概要

開催日：令和4年8月16日、9月6日、10月4日、11月8日、12月13日、令和5年1月17日の火曜日 午後1時～3時30分（全6回）東村山市立中央公民館 全6回開催。

講師：一般社団法人 日本自立支援介護・パワーリハ学会 会長 竹内 孝仁氏、国際医療福祉大学大学院 准教授 小平 めぐみ氏

3. 開催結果

1) 初回は公開講座「認知症重度化予防の基礎理論」とし一般公開。2021年度は35名、2022年度は25名参加。

2) 2～6回は事例検討「認知症の重度化予防に挑戦」とし、家族介護者が参加。自分の事例を毎月報告し、講師から自身に必要な認知症の症状を

改善させる方法について学び実践する。2021年度は9事例、2022年度は3事例。

3) 認知症の症状改善結果

2021年度：初回講義時点（R3.10月）の認知症の症状合計数32に対し、症状消失18（56.25%）、ほとんど改善3（9.38%）、中等度改善1（3.13%）、一部改善4（12.5%）、変化なし6（18.75%）。改善率は症状消失、ほとんど改善を抽出し、65.63%であった。

2022年度：初回講義時点（R4.10月）の認知症の症状合計数15に対し、症状消失7（46.67%）、ほとんど改善1（6.67%）、中等度改善2（13.33%）、一部改善1（6.67%）、変化なし4（26.67%）。改善率は症状消失、ほとんど改善を抽出し、53.33%であった。

4) 参加者の声（アンケートより）

①本人の症状の変化

・半年前に見られたボーとした不活動的な様子はなくなった。・便失禁はほとんどなくなった。自覚してトイレに行っている。・「窓の外に誰か通った」ということはほとんど言わなくなる。・コップやみそ汁をこぼさなくなった。食事に集中するようになった。・昔やっていたあみ物で作品ができた。

②家族介護者の行動変容

・問題行動を起こす母を見ていて心が折れたが声かけによって変化することがわかった。・認知症の人の行動を理解して行動できるようになった。・6か月間参加して気持ちが変わった。母に会うのが楽しくなった。私の作戦で今日はどうなるかなと思うようになった。イライラしていたが、楽しく看取れたらと思うようになった。

*客員研究員 東京純心大学

③参加感想

- ・水分不足で認知症の症状が出現することは今まで知らなかった。勉強になった。
- ・絶望的な毎日を過ごしていましたが、実践塾に参加して気持ちが楽になり要介護者にも優しく接するようになった。
- ・根気強く継続した結果(成果)がでた険しい表情がなくなって通常に会話ができることが嬉しい。

4. まとめ

本研究に参加のあった家族介護者は、適切なケアの実践により、認知症の症状を改善することができることを体感し、合わせて介護負担感の軽減、行動変容が明らかとなった。これもひとえに、少しでも認知症の症状を改善したいという、家族介護者の努力と介護事業所の協力の結果であると考ええる。しかしながら、参加者の置かれている状況により、体調を整えるケアの実践の程度に違いがあり、認知症の症状の改善の結果に影響が見られた。サポート体制や、個別の参加者の置かれている状況に対する対応について、課題が残った。今後の開催へ向け、他機関と連携を強化していきたい。

ご協力いただきました全ての皆様に感謝申し上げます。